

小企画展

豊橋の仏典

会期◆平成二十二年五月二十六日(火)

六月二十一日(日)

会場◆豊橋市美術博物館

二階第二・第三展示室

四四〇一〇八〇二
愛知県豊橋市今橋町三十一
電話◆〇五三二一五二一八八二

豊橋市美術博物館



◆観音経 平安・鎌倉時代 東観音寺蔵(部分)

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第三十五

魚野本堂藏
家奉加部同

今時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌
向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何目緣
名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無

観音経 平安・鎌倉時代 一巻
東観音寺蔵(市有形文化財)

紺紙に金字で妙法蓮華經第二十五觀世音菩薩普門品(觀音經)を書写する。法華經は「小笠原家奉納經典」に見られるように二十八品を八巻に分けて書写するのが一般的であるが、本資料は一品を二巻に仕立てた一品經の一部である。見返しには、觀音を念ずれば海で漂流しても海中に没することがない、あるいは須弥山の崖から突き落とされても太陽のように空中に止まることができるという觀音救済の二つを表す図が描かれている。題字の下に「熊野本宮



妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五
今時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌
向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何因緣
名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無
量百千萬億衆生受諸苦惱聞是觀世音菩
薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆
得解脫
若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不
能燒由是菩薩威神力故若為大水所漂稱
其名乃即得淺處若有百千萬億衆生為求
金銀瑠璃車馬腦珊瑚琥珀真珠寶入
於大海假使黑風吹其船舫飄飄墮落國
其中若有乃至一人稱觀世音菩薩名者是
諸人等皆得解脫離剎之難以是因緣名觀

將軍家奉加四部内」とある。なお当寺には熊野権現の靈告によつて行基が創設したという伝承がある。 竪二六・一六。

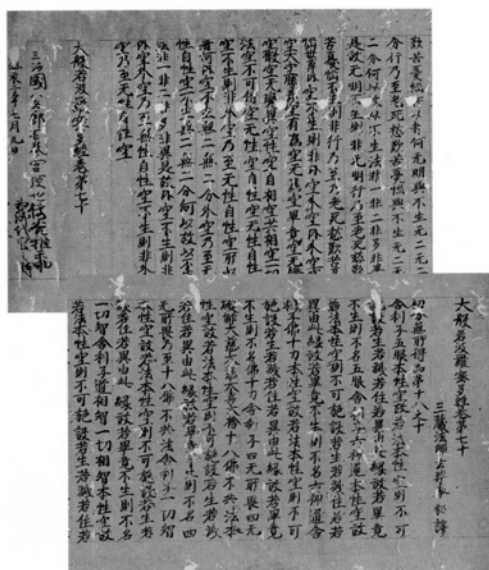
大般若經 応永元年(一三九四)一六年
六百巻のうち 石巻神社蔵(市有形文化財)

大般若經は般若經典の集大成で、玄奘三蔵がインドから中国にもたらした漢訳した。膨大であるため日本では儀式用として転読が行われた。

石巻神社の大般若經は、書写年のわかる約百五十巻の多くが応永二年と三年に成立している。筆者は二十名以上のにのぼるが、渥美郡野田保船岡山下円成寺の經を写した「空石」が最も多い。ほかにも普門寺・東觀音寺・財賀寺・浜松蓮華寺・同龍禪寺・木根郷光照院など、三河・遠江の各所で書写された。本經の成立には多くの勸進僧が関わり、スポンサーである旦那には「当郡領主大草左京亮公光」とある政治的な権力者から、「藤太郎」・「平内」・「明藤禪女」・「道有尼」など俗人や女性といった多様な人々の名を見ることができ。

識語には「三河八名郡神郷石巻宮經也」などと記すものが多いが、当初より石巻神社にあったものではない。「細谷郷両八王子經」とある文字を消したり、糊付けして隠す

◆巻七十



例や、「細谷郷」を消して「石巻宮」と書き直す例の多いことは、渥美郡の両八柱神社(細谷町・東細谷町)から石巻神社に所有が移ったことを示している。 移転にあたっては、「神郷代官桜谷雅樂助」や「尚影」といった地域の有力者が関わり、「八名郡金田之住人直伸」、さらには「神郷御百姓中」とあるように零細な資金を提供した人々もいた。その後十六世紀の中頃には石巻神社の神宮寺と考えられる東光寺で修復が行われたことが知られる。 竪二五・一六。

◆巻三百五十一
(参考)石巻宮織女帳
室町時代 個人蔵



◆関連する神社など



(参考)鬼瓦 文亀三年(一五〇三)
八柱神社蔵



江戸時代

のために奉納されている。



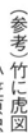
延宝三年(一六七五) 一卷

君三千大千國土滿中然燈有一高王將攝

天和四年（二六八四）一卷

誓旨三畧尊 歸命十方佛 我念發弘願

池田綱政筆 元禄十四年(一七〇二) 一巻



江戸時代 臨濟寺蔵

謝辭

八柱神社 山田邦明 臨濟寺

